

悲しくてとても残念です。

ペシャワール会の現地ワーカー、農業指導担当の伊藤和也さんが武装グループに誘拐されて殺害されてしまったことはご存知のことと思います。事件の詳細はいまだはっきりせず、マスコミによれば、タリバーンだとか、タリバーン系だとか、政治目的だとか、金銭目的だとか、部族対立だとか、パキスタンの勢力が金で雇われただとか、情報はいまだ錯綜しています。しかし伊藤さんがアフガニスタンの地元でも信頼されていたのは事実で、誘拐直後1000人へのぼる人々が捜索に参加し、地元の人による葬儀もおこなわれました。しかし、将来のある青年の命が失われてしまったという重たい事実はこのこります。

9月1日におこなわれたお別れ会では伊藤さんのご両親は、アフガニスタンをうらんでもいない、和也は家族の誇りである、育てていただいたてでありがとう、和也はアフガニスタンの星になった、と発言されていました。しかし、時折、絶叫、号泣されるすがたはとても悲しくて、見るのがつらいものでした。しかし、かえすがえす残念なのは、ペシャワール会としては治安の悪さ、危険性は重々感じていて、「夜間外出はしない」から始まって何項目かの注意事項を徹底していました。同僚のワーカーによると、伊藤さんはとりわけ注意深く行動していたと言われています。それでも防げなかったのです。信頼されているから大丈夫としていたわけではないということでした。

ペシャワール会としては事業の継続をきめています。しかし、日本人ワーカーはひきあげ、中村哲さんと現地ワーカーによる事業継続となります。

事件以後、名古屋にも多くの気遣いの電話や問い合わせがありました。ペシャワール会の活動が多くの人たちに支えられていることがわかりました。私たちにも情報がなく、ことの真相がよくわからず、きちんとした対応ができずもうしわけありませんでした。

私たちはこれからも中村哲さんとペシャワール会を応援し、アフガニスタンの平和のために活動します。伊藤さんの志を継いでいかねばと思っっています。現地ワーカーはほんとうにすばらしい青年たちです。彼らが汗を流す場所がなくなるのは残念ですが、安全を期すのは当然です。

伊藤和也さんの、これまでのこつこつねばり強い活動は讃えるにふさわしいものです。心よりご冥福を祈ります。アフガニスタンに平和がおとずれ、人々が平穏にくらせるまで、ともにがんばりましょう！この悲しみと悔しさはわすれません。

ペシャワール会名古屋 八木巖